

【I 防衛大臣政務官を拝命】

防衛大臣政務官を拝命しました。我が国の独立、平和と安全を守る重責であり、身の引き締まる思いです。



私はこれまでに参議院の外交防衛委員会委員長を務め、その後、外務大臣政務官としてアジア地域や経済外交を担当。続いて、自民党の国防部長代理として研鑽を重ね、自民党の環境部長を経て防衛大臣政務官に就任しました。



外交と防衛は車の両輪。外交力を高めるには防衛力の強化が欠かせません。厳しい安全保障環境を乗り切るため、全身全霊で職務に取り組みます。このような使命を担うことができ、政治家として感無量です。叱咤激励をいただいております皆さまに心より御礼申し上げます。

今なお、ロシアによるウクライナ侵略が続いています。既にウクライナの推定死亡者は、市民で 9 千人以上、軍では 7 万人前後に及んでいます。なぜこのような事態に至ったのか。惨劇の軍事的背景は次のように考えられます。

---

① ウクライナは、ロシアに侵略を思い止まらせるだけの十分な防衛力を有しなかった。

---

② ウクライナは、同盟国を持たず、核の傘にも守られていなかった。

---

③ 脅威は「意思」と「能力」で顕在化する。高い軍事力を持つロシアは、ある時、侵略の意思を持った。

---

ウクライナ侵略から得られた教訓は言うまでもなく、侵略行為を踏みとどまらせるに十分な抑止力が必要だということです。わが国が防衛力の抜本的強化を急ぐ理由です。



9月19日午後、市谷の防衛省で着任行事があり、栄誉礼の後、慰霊碑に献花致しました。

防衛大臣政務官として主に防衛政策局、地方協力局、防衛装備庁を担当します。



## 【Ⅱ 福島第1原発、処理水の海洋放出始まる】

東京電力福島第一原発から、ALPS 処理水の海洋放出が始まりました。この処理水は事故のあった建屋内の放射性物質を含む水を、トリチウム以外の放射性物質について安全基準を満たすまで浄化したものです。トリチウムは浄化が難しいため、国内外の安全基準を十分に満たすよう、処理水を海洋放出する前に海水で大幅に薄めます。これによりトリチウム濃度は、国の安全基準の40分の1＝WHO 飲料水基準の約7分の1未満になります。



放出に先立つ8月7日、自民党環境部会長（当時）として、日本分析センター（千葉市）を視察。センターでは原発の周辺海域で採取した海水のトリチウム検査を既にスタートさせており、視察時も採取したばかりの海水を分析中でした。放出後はさらに分析頻度を高め、監視を強化しています。

処理水の放出を巡っては、中国政府が「太平洋は日本が核汚染水を垂れ流す下水道ではない」などと反発しています。ただ、日本分析センターによると、中国の分析機関の関係者からはALPS 処理水の海洋放出への異論が寄せられていません。実は中国の複数の原子力発電所は福島第一が予定する放出量より、大量のトリチウムを出しています。



「あなたにだけは言われたくないということだと思う」との甘利明議員（前自民党幹事長）の発言に強く賛同します。政治的思惑で、我が国の取り組みにケチをつけるのはやめていただきたい。

## 【Ⅲ ペットボトルの再生工場】

8月には世界最大級のペットボトルの再生拠点である、遠東石塚グリーンペット社の東京工場も訪問。リサイクルにより、二酸化炭素排出量の削減にも

つながります。同社はリサイクル技術で先行する台湾企業と日本企業との共同出資会社。来年度には姫路工場も立ち上がります。

日台協力のモデルとして高く評価すべき取り組みであり、発展途上国など第三国への技術移転を日本政府が後押しできれば「環境外交」のツールとなります。



#### 【IV バッテリー工場視察】

「未来社会を創出する、バッテリー等の基盤産業振興議員連盟」(甘利明会長)の事務局長として、経済安全保障推進法により、「特定重要物資」にも指定されたバッテリーの産業振興に取り組んでいます。

7月下旬、トヨタ自動車とパナソニックホールディングスの共同出資会社プライムプラネットエナジー&ソリューションズのバッテリー工場(姫路市)を訪問。視察を通じ、脱炭素社会を支える我が国バッテリー産業の将来に大きな期待が持てました。



#### 【V ラグジュアリー観光の振興】



「ラグジュアリー観光等の振興を通じ、我が国経済と文化の発展を目指す議員連盟」(河野太郎会長)を立ち上げ、事務局長として、海外の超富裕層を日本に呼び込むための環境整備を進めています。

「経済活性化」「文化・観光資源への再投資」「観光外交の推進」のためです。  
(写真:8月下旬、高松港に寄港したスーパーヨット)